

スタート前、緊張の時
静かな闘志を胸に、
いざ「Ready Go!!」

SAGA 伐木チャンピオンシップ 2023 (嘉瀬川河川敷 [佐賀市] にて)

《林業ひろば》

- ・SAGA 伐木チャンピオンシップ 2023 を開催……………2～3
- ・第 5 回森川海人っフェス！を開催……………4
- ・森川海人っ 1 日体験スクールを開催……………5

《林政だより》

- ・さが林業アカデミーの取組
～佐賀で林業をしたい方を応援しています～……………6

《普及だより》

- ・森林作業道作設オペレーターの育成……………7
- ・基山町林業研究会の活動紹介……………8
- ・「森川海人っ教室」七山林業研究会と共同開催……………9
- ・林業就業支援講習会を開催……………10

《林試だより》

- ・第 79 回九州森林学会大会が開催されました……………11

《裏面》

- ・表彰受賞者のお知らせ、緑の募金御協力のお願ひ……………12

2年に1度の熱戦！

令和5年11月25日（土）、佐賀市の嘉瀬川河川敷において「SAGA 伐木チャンピオンシップ 2023」を開催しました。本イベントは、伐木技術や安全意識の向上と林業の魅力発信を目的に令和3年度から隔年で開催しており、今回で2回目です。今回大会は、県が主催し、林業・木材製造業災害防止協会佐賀県支部、佐賀県森林組合連合会、一般社団法人佐賀県木材協会、県内の林業事業者からご協力いただきました。また、県内の林業就業者が出場する「SAGA 伐木チャンピオンシップ」（SLC）と、全国・世界大会への出場経験選手が九州内外から出場する「九州伐木チャンピオンシップ」（KLC）を同時開催しました。当日は観客数で1,266人、選手・関係者を含めると約1,500人の方にお越しいただきました。



日頃の仕事で培った技術を発揮する佐賀の選手



安全・正確性を守ってスピーディーに…

SLCは3種目で競う

SLCの選手は、1チーム2人以内の28人・15チームで、伐倒、丸太合せ輪切り、枝払いの3種目を競いました。伐倒競技エリアでは、地上11mのマストツリーを目標杭へ目掛けて選手が正確に伐り倒し、伐倒の迫力と技術の高さに観客からは「おー！」と歓声が上がっていました。ステージでは丸太合せ輪切り競技と枝払い競技を行い、観客やライバル選手の視線が集まる中で選手は緊張しながらも、安全・正確性・スピードに気を付けて競技されていました。フィナーレを飾る枝払い競技のハーフタイムには、佐賀、長崎、大分、熊本、奈良の県職員によるエキシビジョンマッチがあり、普段は林業技術の普及指導の立場にある職員が選手として競技され、観客や同僚から声援が送られていました。

KLCに全国・世界大会出場選手も参戦

同時開催したKLCは、SLCの上記3種目に、ソーチェーン着脱競技、接地丸太輪切り競技を加えた計5種目を1人で競技され、10人が出場しました。KLCには、第4回日本伐木チャンピオンシップ（JLC）総合1～3位の今井陽樹さん、杉本和也さん、横山大蔵さんや、同大会で上位入賞された太良町森林組合の坂口学さんや岩永大輔さんも出場されました。JLC総合1～3位の選手3名は、令和5年4月にエストニアで開催された世界伐木チャンピオンシップにも日本代表チームとして出場されており、観客だけでなく、SLCの選手、スタッフの皆さんも食い入るようにして全国・世界レベルの技術を観覧されていました。

また、会場内に併設したイベントエリアでは、林業機械、チェーンソー、防護服等の展示・販売や、



盛り上がりを見せたエキシビジョンマッチ



全国・世界レベルの技術で魅了するKLCの選手

ドローン体験、木製雑貨やクヌギ薪の販売、テントサウナ体験などが多数出店されました。バルーン係留の搭乗体験もあり、競技開始前から親子連れの観客らでにぎわいを見せていました。グルメエリアにはアウトドアグルメ、ジビエ、スイーツのキッチンカーなど11店舗が出店され、ご家族やご友人と楽しくグルメを楽しまれていました。

「安全・技術向上×魅力発信」は果たせたか？

多くの来場者でにぎわった SAGA 伐木チャンピオンシップ 2023 ですが、開催の一番の目的は「伐木技術や安全意識の向上」です。その達成のため、大会開催前に選手向けのルール勉強会を開催しました。前述の坂口学さんと岩永大輔さんに講師をお願いし、単に競技ルールを教えるだけでなく、「ルールやペナルティが、林業の現場においてどのような意味を持つのか」、「そのために、基礎技術がいかに大事か」なども丁寧に教えていただきました。そのおかげで、選手の皆さんは勉強会で熱心に学ばれていて、「単なるイベントではなく、日頃の仕事に直結する基礎技術が詰まっている」ことを実感いただけたと思います。また、大会出場後の選手に話を聞くと、「〇〇は上手くできたけど、〇〇がいまひとつだった…」、「次回リベンジしたい！」など、結果をきちんと自己分析してフィードバックしようとする姿勢がうかがえたことから、「自身の伐木技術を客観的指標で PDCA を行う」という意識の醸成を図れたのではないかと考えています。

さらに、ひたむきに競技に臨む選手の姿は観客にもしっかり伝わっています。その証拠に、来場者へのアンケートで「林業に対するイメージの変化」を質問したところ、94%の方が「ポジティブ/プラスに変わった」と回答され、「カッコいい」、「面白そう」、「選手や林業で活躍する人を応援したい」との回答も多数見られ、もう一つの目的である「林業の魅力発信」を同時に実現できたと言えます。

なお、当日のダイジェスト動画や競技結果の詳細は、県林業課の運営サイト「よかウッド」にて公開しています。ぜひご覧ください。最後になりましたが、SAGA 伐木チャンピオンシップ 2023 にご参加いただいた選手、スタッフ、関係団体、受託者、出店各社の皆様、そして九州伐木チャンピオンシップ事務局のキュウシュウロガースの皆様にご心から感謝申し上げます。

(林業課 企画振興担当 福井 遼)



総合1～3位を受賞した SLC、KLC の選手



種目別1位を受賞した SLC の選手

SLC 総合1～3位

順位	チーム名	選手①	選手②	3種目合計点
1位	太良町森林組合 A	川浪 朋大	小川 翔平	1,109
2位	東部林業 A	八谷 弘毅	富田 誠	1,086
3位	太良町森林組合 B	富永 司	小池 優人	1,048

SLC 種目別1位

種目	チーム名	選手	得点
伐倒	東部林業 A	八谷 弘毅	632
合せ	太良町森林組合 A	小川 翔平	165
枝払い	西部林業	土田 啓文	350

KLC 総合1～3位

順位	所属	選手	5種目合計点
1位	合同会社ひのきや (群馬県)	今井 陽樹	1,584
2位	下仁田町森林組合 (群馬県)	横山 大蔵	1,530
3位	後藤林業 (熊本県)	高野 毅	1,526

当日のダイジェスト動画や競技結果の詳細は、県林業課の運営サイト「よかウッド」にて公開中です。ぜひご覧ください。





「第5回森川海人っフェス！」とは

県では、森と川と海のつながりや管理の重要性などについて、県民の皆さまの理解醸成を図ることを目的に「森川海人っプロジェクト」に取り組んでいます。本プロジェクトの取り組みの一環として、令和5年11月19日（日）にSAGAサンライズパークで「第5回森川海人っフェス！」を開催し、森川海のワークショップ等を通じて、私達の暮らしが自然の恵みによって支えられていることを楽しみながら理解を深めていただきました。

森川海で活躍されている方に感謝！

フェスでは、森や川や海で活躍する18の個人・団体に対して感謝状の贈呈や各種表彰が行われました。なお、緑化運動・育樹運動ポスターコンクール、木工工作コンクール等で受賞された作品は会場内に展示され、訪れた来場者はその完成度に驚いた様子で作品を見て回っていました。受賞された皆様の今後益々の御活躍に期待しております。（本誌の裏表紙に各受賞者の一覧を掲載しておりますので、御覧ください。）



森川海人っ感謝状受賞者との記念撮影

森川海のつながりを体験！

会場には森や川や海に関する展示ブースや体験ブースが多数出展されました。「森」では、県産木材を使った積み木体験やかんなくずを使ってかわいいお花を作るウドリボンフラワーづくりなどが行われ、「川」では、佐賀に生息する身近な生き物が観察できる出張水族館やクリークの仕組みや生き物の名前当てクイズなどが行われました。そして「海」では、釣り竿に重りをつけて大物の魚を釣る疑似体験ができる疑似釣り体験や海洋プラスチックを使って手裏剣を作るプラスチックリサイクル手裏剣づくりなどが行われました。また、「さが農村マルシェ」も開催され、県産の農産物やお弁当を買い求める来場者で賑わいました。



県産木材の積み木を高く積み上げる来場者



出張水族館に展示されている生き物を観察する来場者



10kgのマダイを疑似釣りする来場者



農産物の販売で賑わう「さが農村マルシェ」



森川海人っ1日体験スクールとは

県では森川海人っプロジェクトの取組の一環として、佐賀の森川海を1日で巡り、森川海に関する学びや体験を通して、子どもたちが佐賀の自然の豊かさ、大切さ、人との関わりについて考える親子参加型の体験ツアー、「森川海人っ1日体験スクール」を実施しています。今回は、令和5年9月23日（土）に伊万里市及び武雄市で開催した1日体験スクールを御紹介いたします。

伊万里の森川海の恵みを体感！



40cm超えのボラを釣りあげた参加者

最初の体験は「久原埠頭」での「海釣り体験」です。釣り体験を始める前に海上保安庁の方から正しい救命胴衣の着用と救助の仕方についてお話があり、もし海で事故が起きた時の身の守り方を教わりました。そして、釣り体験では様々な魚を釣り上げ、中には40cm超えの大物を釣り上げた参加者もあり、一喜一憂しながら楽しい体験となりました。釣り体験が終わった後は全員で釣り場の清掃活動を行い、海の環境を守る活動を行いました。

次の体験は「馬ノ頭水利施設」での「川のお話」です。馬ノ頭水利施設では逆サイフォンという自然の原理を使って松浦川の下側を通って対岸に水をくみ上げています。400年前の建設機械も無い時代に先人たちが知恵を絞って水を上手く使っていたことに参加者は驚いていました。

最後の体験は「黒髪少年自然の家」で黒髪山の様々な動植物のお話を聞きながら散策を行う「わんぱく大冒険」です。竹でできた橋を渡る体験では、竹1本でも人間の体重を支えられる強度があることに参加者は驚きながらも楽しく橋を渡っていました。

参加者の声

参加者たちからは「釣るだけではなく、マナーも学ぶことができたので、釣りをする機会があれば実践したい。」「松浦川の下を通して対岸に水を汲み上げていることを初めて知ったしそれが400年も前にできたことに驚いた。」「竹の上を歩いて渡るのがおもしろかった。」「森と川と海がつながっていて、魚たちに栄養が届いていることが分かった。」等の声が寄せられ、森川海のつながりやその大切さを学ぶことができました。



逆サイフォンの原理の説明を聞く参加者



竹でできた橋の上を渡る参加者

おわりに

「森川海人っフェス！」や「1日体験スクール」で学んだことをきっかけに1人でも多くの方が森川海のつながりを実感し、佐賀の森川海を守る行動につなげていって欲しいと思います。

（森林整備課 森川海人っプロジェクト推進担当 大野尚多朗）



はじめに

県では、令和4年度から新たな取組として「さが林業アカデミー」を開講し、「知る」「触れる」「学ぶ」の3つのステップで、県内において林業をしたい方を応援しています。

第1段階の「知る」ステップでは、東京会場と佐賀会場の2か所で「林業就業セミナー」を、第2段階の「触れる」ステップでは、県内の林業現場で「林業体験会」を開催しています。そして、第3段階の「学ぶ」ステップでは、実践的な「林業講習会」を開催しています。

公益財団法人佐賀県森林整備担い手育成基金では、県から委託を受けて、これら「林業就業セミナー」などの運営をしておりますので、今年度の取組についてご紹介します。

センパイに聞こう「林業就業セミナー」

令和5年8月20日（日）に開催された東京会場では、関東圏から来場5名、オンライン5名の参加者がありました。また、令和5年9月2日（土）に開催された佐賀会場では、県内外から18名の来場者がありました。

当日は、佐賀県の森林・林業の紹介をした後、現役の林業就業者である東部林業(株)の海田康一郎さん、太良町森林組合の岩永大輔さん、まつら森林組合の美山愛さん



現役就業者とのトークセッション「林業就業セミナー」（佐賀会場）

とのトークセッションを行いました。トークセッションにおいて、林業の魅力は、自然の中の職場で小鳥の鳴き声に癒しを感じることに、早起きになり生活のクオリティが高まったことなどを話されました。また、林業就業する前と入った後のギャップなどの体験談などもありました。この後、東京会場来場者4名は、旅行券プレゼントの応募があり、次のステップの「林業体験会」に参加されました。

高性能林業機械操作などの「林業体験会」

「林業体験会」は、令和5年10月22日（日）にまつら森林組合や七山県有林で開催し、県内外から18名の参加者がありました。まつら森林組合の事務所で「サガンスギ」苗木の生産圃場を見学した後、七山県有林に移動しました。七山県有林の搬出間伐現場では、チェーンソーによる伐倒作業の見学、プロセッサやフォワーダの操作体験を行いました。参加者からは、実際の



プロセッサの操作体験「林業体験会」（七山県有林）

の林業現場を見て知ることができ、高性能林業機械の操作体験もできたので、より具体的な林業就業のイメージが湧きましたとの感想がありました。

おわりに

第3段階の「林業講習会」は、令和6年1月10日（水）に開講し、林業試験場の林業専門技術員等が講師となり、5名の方が実践的な研修を受講されています。

また、当基金では、令和6年2月4日（日）に「林業就業マッチング相談会」を開催し、林業就業セミナー、林業体験会の参加者と県内林業事業体との就業相談会を実施します。さが林業アカデミーを通じて1人でも多くの方が、佐賀県内の林業事業体に就業されることを期待しています。

オペレーター育成状況

路網は、持続的な林業経営を実現する上で重要な生産基盤です。地形や作業システムに応じて、林道や森林作業道を適切に組み合わせながら整備を進めていくことが必要です。森林作業道は、搬出間伐などの森林作業のための道であり、主としてフォワーダなど林業機械の走行が想定されています。その整備にあたっては、路体や山地の崩壊を招かないように水処理などに十分注意しながら、また費用対効果も考えながら、「丈夫で簡易な森林作業道」を作設できるオペレーターの育成が必要であり、林野庁では、平成 22 年度に森林作業道作設指針を制定するとともに、オペレーター育成の事業をスタートさせました。

事業開始当初は、民間団体により研修が実施されていましたが、平成 30 年度からは、林野庁の補助事業として、県が事業主体となり研修を行っています。現在、研修実施にあたっては、県の林業専門技術員等が講師を務めておりますが、研修生の募集や日程調整などの運営は、佐賀県森林組合連合会に委託し、行政と団体が連携しながらオペレーター育成に取り組んでいます。

こうした取組により、佐賀県内では、これまでに 88 名の技術者が研修を受講され、森林作業の現場で活躍されています。



座学の状況 (R5 年 11 月 14 日 : まつら森林組合会議室にて)

ICT 技術を取り入れた研修を実施

平成 22 年度の養成事業開始時は、指導者養成と初級技術者養成の 2 区分で研修がスタートしましたが、平成 29 年度までに、これら技術者の養成が概ね終了し、現在は、中級および高度技術者向けの ICT 技術を取り入れた研修を実施しています。

今年度は、唐津市相知町の伊岐佐県有林において、10 月 23 日から 26 日に中級研修を、11 月 14 日から 17 日に高度技能者研修を実施し、林業事業体の技術者や個人事業主の方が、各研修ともそれぞれ 5 名受講されました。



現地踏査の研修 (R5 年 11 月 15 日 : 伊岐佐県有林にて)



応用土工の研修 (R5 年 11 月 16 日 : 伊岐佐県有林にて)

各研修では、初日に半日の座学を行い、その後は、現場で路線選定や現地踏査、応用土工などの実習を行いました。路線選定では、県の森林 GIS の地形情報をスマホアプリで活用する方法、また、現地踏査では、スマホアプリによる踏査軌跡の確認方法など ICT 技術の活用手法についても研修を行いました。また、高度技能者研修の応用土工では、連続するヘアピンカーブ（曲線半径 6m、勾配 15%）の作設実習を行いました。研修後のアンケートでは、「作業手順のイメージができた」、「路肩と根株設置のコツ、盛土の高め方が理解できた」、「ヘアピンカーブの作り方がわかり、今後、現場で活かしたい」などの感想が聞かれました。今後とも、関係団体などと連携し、森林作業道作設オペレーターをはじめ、優れた知識と技術を有する林業担い手の確保・育成に努めていきたいと思っております。

(林業試験場 普及指導課 矢野博典)

基山町林業技術研修会

基山町で活躍されている「基山町林業研究会」は、平成 21 年に設立され、地域の文化遺産や景観維持、里山の整備などを目的として、林業技術研修等の活動を継続されています。

今年度は 11 月 12 日、12 月 17 日のいずれも日曜日に基山町林業研究会会員や林業技術の向上を目指す人を対象に、基山町林業研究会が開催されました。この研修会は、山の手入れをしたい、木の伐採をしたいと思っている人を募り、林業に興味を持ってもらうとともに、林業技術を身につけ、共に山の手入れをしていきたいとの思いで令和 3 年度から実施されています。

令和 5 年 11 月 12 日は、林業試験場の林業専門技術員を講師としてチェーンソーの目立ての座学・実技研修のほか、サガングの特徴や造林事業の補助金「佐賀県次代へつなく森林再生事業」による嵩上げ（植林 90% 下刈り 100% 補助）などについて説明時間を農林事務所のために確保していただき、とりわけサガングに関心を持っていただきました。

また、12 月 17 日の伐木の実技研修では、林業専門技術員の指導の下、安全を第一に、目立て研修参加者が自分で目立てしたチェーンソーで伐木を行い、おのおので切れ味を確認されていました。



目立て研修中



伐木研修中

基山中学校職場体験活動

令和 5 年 9 月 13 日から 15 日にかけて基山町林業研究会による基山中学校の 2 年生を対象とした林業職場体験活動が開催されました。初日は基山町林業研究会の末次会長が「森林の役割と林業」について、基山町が日本植林発祥の地であることや今は森林が荒れていること、森林は二酸化炭素を吸収してくれること、林業では植林、下草刈り、枝打ち、間伐、搬出（皆伐）がサイクルで成り立っていることなどを解りやすく説明されました。また、農林事務所から「森川海人っ教室」として森川海人プロジェクトの取り組みなどについて紹介させていただきました。生徒たちは、普段、聞けない森林や林業の話ということもあって興味を持って話に聞き入っているようでした。2 日目以降は現地実習などを行いました。これからも基山町林業研究会の林業職場体験活動を通じて一人でも多くの生徒が森林や林業を大切に思ってくれることを期待しています。



森林の役割と林業 現地実習中



森川海人っ教室

（東部農林事務所 林務課 橋口 功）



「森川海人っ教室」七山林業研究会と共同開催

森川海のつながりや森林と私たちの暮らしについての出前講座

令和5年12月8日（金）に「七山林業研究会」と協同で、唐津市立七山小中学校5年生18名の生徒を対象に、森林や林業、森川海のつながりについて学ぶ講座を開催しました。

森川海人くんも駆けつけて、生徒たちが「森川海人くーん」と大きな声で教室に呼び入れてくれました。

唐津農林事務所からはプレゼンテーション資料で伐倒や林業機械の動画を用いて、森林の働きや森川海のつながり、林業について質問形式で説明すると、生徒たちから驚きの声を聞くことができ、積極的に手を挙げて講座に参加してくれました。

また、女性の方も林業の技術者として働いている姿を見せると「かっこいい！」と声があがり、男性だけの職業ではないと認識してもらえたと思います。



出前講座への子供たちの参加の風景

七山林業研究会による伐倒の実演と丸太切り体験

講座の後は、七山林業研究会の諸熊雅博氏所有森林に貸し切りバスで移動し、諸熊氏による伐倒作業の実演と丸太切り体験を行いました。

伐倒実演ではエンジンをかけたチェーンソーの音の迫力と立木が正確に伐倒されたことに、驚きの声が上がっていました。

その後、七山林業研究会に事前に準備していただいた小学生でも切れる細い丸太をのこぎりで切る体験してもらいましたが、なかなかうまく切れず七山林業研究会の方々に手助けを求めたり、ようやく切れた時には「やったー」と歓喜の声が聞こえたりと大盛況でした。

切った丸太は、やすりがけをして切り口をきれいにしたり、樹皮をはいだりして、生徒たちに持って帰ってもらいました。

けがもなく、終始楽しそうな声を聞くことができ、非常にいい体験会だったと感じました。

持ち帰った丸太を見て、この講座を思い出してくれると嬉しいです。



丸太切り体験



諸熊氏による伐倒実演

(唐津農林事務所 林務課 普及担当 横田晃宏)



林業就業支援講習会を開催

はじめに

伊万里有田地区森林・林業協議会では、令和3年度から地域林業の担い手の育成・確保を目的として、伊万里市及び有田町の森林環境譲与税を活用し、管内高校生を対象とした林業・木材産業への就業支援に取り組んでいます。

今回は、佐賀森林管理署の協力で、国有林において株式会社西部林業が皆伐作業されている現場を提供してもらい、そこで伊万里実業高校の生徒（2年生17名）が実際に機械操作を体験しました。

○ 日時：令和5年8月7日（月） 10:00～12:30

○ 場所：大平国有林 1052 林班 ね小班 ほか

（藤津郡太良町）

講習内容

受講生17名が3班に分かれて

- ① スイングヤーダによる集材作業
- ② フォワーダへの素材積み込作業
- ③ ハーブスタによる造材作業

を講師の指導のもと機械操作を体験してもらいました。

講習を終えて

講習会は、半日という短い時間でしたが、佐賀森林管理署と株式会社西部林業のご厚意と協力で、参加した生徒たち全員が機械操作の体験をすることができました。

生徒たちは、いざ機械操作となると真剣な姿で挑み、学ぼうとする意志が伝わってきました。

この研修を通して、林業の魅力や何かを感じとるきっかけとなり、林業関係の就業につながればと思います。



概要説明



スイングヤーダによる集材作業

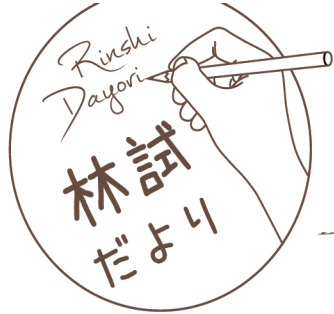


フォワーダへの積み込み作業



機械操作状況

（伊万里農林事務所 林務課 普及・森林管理担当 桑原康成）



第79回九州森林学会大会が開催されました

はじめに

九州森林学会は、九州地方における森林・林業に関する科学および技術の進歩と普及を図り、併せて会員相互の交流と親睦を図ることを目的とするもので、毎年1回、大会が開催されています。今年度は、10月20日と21日の2日間、本県において「第79回九州森林学会大会」が開催されました。

大会初日は、ホテルマリターレ創世で役員会や通常総会のほか、サガンスギの木材強度の高さを解明するため、当試験場と共同で研究に取り組んでいる九州シンクロトン光研究センターの廣沢一郎氏による特別講演が行われました。また、2日目は佐賀大学本庄キャンパスにおいて研究発表会が行われ、当試験場からも現在取り組んでいる研究課題について発表しました。

発表内容

研究発表会は全部で8部門に分かれており、当試験場からは、林産、保護、育種の各部門で発表を行いました。林産部門では、「簡易施設を用いたアラゲキクラゲ菌床栽培における収量増産方法の検討Ⅱ」と「クreek木杭の引抜調査結果」、保護部門では、「佐賀県内における新種ヨコバイの発生消長及びサカキの白点被害状況」、育種部門では、「サガンスギの採穂台木のシュートフェノロジー」と「第2世代スギ精英樹の材質形質評価のための計測手法」について、それぞれ発表しました。

いずれの研究発表についても、様々な質問や意見があり、討論が大いに盛り上がりましたが、なかでも、新種のヨコバイによる被害については、ヨコバイの生態や防除方法がはっきりわかっていないことから、発表内容への質問が多く、討論も白熱しました。

また、育種部門では、サガンスギの採穂台木の研究に対する質問だけでなく、研究の手法について様々な意見やアドバイスをいただくことができ、とても学びの多い時間となりました。



通常総会（開催県挨拶）



研究発表会

おわりに

九州森林学会大会はコロナウイルス感染症の影響により、ウェブでの開催が続いていましたが、今回は3年ぶりの現地開催となり、大会運営委員の方々をはじめ、たくさんの方にご尽力いただき、無事に閉会することができました。大会運営にお力添えいただいた方々に感謝申し上げますとともに、今回の大会を通して得た知見を今後の研究で十分に活かし、森林・林業に関する技術の進歩に向け、より一層励んでいきたいと考えています。

（林業試験場 研究開発担当 柴田晴矢）

表彰受賞者のお知らせ

第67回佐賀県森林・林業・緑化功労者等表彰

- 緑化功労者賞 個人の部 川添 博信（唐津市）
- 緑化功労者賞 個人の部 松尾 政司（伊万里市）
- 緑化功労者賞 団体の部 武内町親林会（武雄市）
- 緑化功労者賞 団体の部 JAさが神埼地区椎茸部会（神崎市）
- 佐賀県優良緑の少年団 最優秀賞 鹿島市明倫緑の少年団（鹿島市）
- 佐賀県優良緑の少年団 優秀賞 有田町龍門緑の少年団（有田町）

令和5年度佐賀県緑化運動・育樹運動標語コンクール表彰

- 知事賞 香月 愛菜（佐賀市立本庄小学校5年）

第31回県下工業高校生建築設計競技大会表彰

- 知事賞 下津浦 愛莉（佐賀県立佐賀工業高等学校3年）

第8回さがの木の住まいコンクール表彰式

- 佐賀県知事賞 新築住宅部門 株式会社田久保建設
- 佐賀県知事賞 木質化部門 株式会社マベック

第6回佐賀県森川海人っ感謝状贈呈

- 森の部 吉村 剛（佐賀市）
- 川の部 多良岳～有明海・水環境保護団体 水の会（鹿島市）
- 海の部 シチメンソウを育てる会（佐賀市）

令和5年度佐賀県緑化運動・育樹運動ポスターコンクール表彰

- 知事賞 小学校の部 田中 陽菜（佐賀大学附属小学校5年）
- 知事賞 中学校の部 横尾 奈南（佐賀市立城北中学校2年）
- 知事賞 高校の部 山口 夏季（佐賀県立有田工業高等学校1年）

第38回佐賀県児童・生徒木工工作コンクール表彰

- 知事賞 小学生低学年の部 山口 莉緒（嬉野市立吉田小学校2年）
- 知事賞 小学生高学年の部 佐志 泰一（伊万里市立黒川小学校5年）

令和5年度全国育樹活動コンクール

- 林野庁長官賞 中島 清光（鹿島市）

緑の募金活用事業の紹介 ・ 春期募金（3～5月）御協力をお願い

緑の募金の活用について

（公財）さが緑の基金では、緑化の普及促進のほか、県民の皆様から寄附いただいた「緑の募金」を活用して、身近な地域の緑づくりや里山林等の整備を行う自治会やボランティア団体等に苗木代等の助成を行うほかに、次世代を担う緑の少年団の育成を図るため、少年団活動の支援や環境教育等を行っています。



R4募金額 51,780千円
皆さんご協力ありがとうございました

令和4年度は、地域の緑化事業や里山林の整備に助成するとともに、緑の少年団30団や森林づくりボランティア6団体の活動に支援するなどした結果、広葉樹6,332本、花苗7,273株の植栽や15.29haの里山林を整備することが出来ました。

募金協力をお願い



森林は、水源涵養や国土の保全、地球温暖化の防止、山や川・海における生物多様性の維持並びに県民に保養やレクリエーションの場を提供するなど多様な機能を有しており、この機能の維持・向上を図るためには、継続して森林の整備や緑化を進めていくことが重要となっています。

については、今年度も春期募金運動として3月1日～5月31日まで実施しますので、県民の皆様の御協力をお願い申し上げます。



<編集後記>

もうしばらく寒い日が続きますが、少しずつ春の足音も聞こえて来ます。林試内の樹木園では、これから、マンサク（2月下旬～3月上旬）やトサミズキ（3月中・下旬）などの花のほか、林床には、セリバオウレン（2月～3月上旬）の可憐な白い花も見られます。（N.B）



Follow us!



「みんなで育てよう!さがの森林」
Facebook公式ページはこちら!
気になる方は「いいね!」しよう



<http://www.facebook.com/saganomori>

さがのよか木を応援する
「よかウッド」公式サイトはこちら!



<http://www.yoka-wood.jp>

編集・発行

令和6年2月1日発行
〒840-0212 佐賀市大和町大字池上3408番地
佐賀県林業試験場・佐賀県林業改良普及協会
TEL：0952-62-0054

※この冊子は、「佐賀の森の木になる紙」
を使用しています。

